

上島町総合防災訓練 災害に強い上島町を目指して

5月27日(日)、上島町全域において、高知県沖を震源とする南海トラフ巨大地震が発生したという想定のもと、上島町総合防災訓練が実施されましたので、各地区での訓練状況をご紹介します。



消防防災ヘリ救助訓練 (佐島)



避難所開設訓練 (生名)



簡易ベッド組立体験 (生名)



応急担架作製体験 (岩城)



放水訓練 (生名)



濃煙体験 (岩城)



陸こう閉鎖訓練 (岩城)



防災ヘリ機体展示見学 (佐島)



住民避難訓練 (岩城)



雨ガッパ作製体験 (久司浦)

東日本大震災で甚大な被害を受けた宮城県の沿岸部、山元町。「ここは、津波が来ないところだと言われていたのに…」と人々が口にしたと言います。他の災害の被災者からも、「まさか、ここで起こるとは」「まさか、自分が巻き込まれるとは」という言葉を耳

にすることがあります。皆さんは、その「まさか」への備えはできていますか。どんな災害のとき、どこへ避難するか、持ち出し品は準備しているか、近所にはどんな人が住んでいるのか。防災訓練を終えても、今一度見直しておく必要があるのではないのでしょうか。

町長の独白



明日は我が身か、

かの寺田寅彦先生が「災害は忘れたころにやってくる」と言い残したあと、自然災害をはじめとする数々の災害が次から次へと国民を苦しめています。地震、台風、豪雨、等々、。

地球物理学者の話によると日本列島の地殻は活動期に入ったようだとか。いろいろな報道でも活断層が列島各地に網の目のようになって、いつどこで地震が起こっても不思議ではないのが実情のようです。

上島町でも毎年、趣向を変えて防災訓練に取り組んでいますが、なかなかみなさんの防災意識が高まっていないのが現状ではないでしょうか。

最悪のケースが予想される南海トラフ地震についても、津波到達までに五時間ほどかかり、満潮時でなければ大した被害は出ないだろうという予想がなぜか浸透しています。果たしてこれでいいのでしょうか。杞憂であればそれに越したことはないのですが、忘れたころにやってきた場合、海拔ゼロメートル地帯が多い町内では、どこにどう逃げたらよいか自分でしっかり考えたことはありますか。

明日は我が身とらえて、まさかの時のイメージトレーニングだけは常日頃からしっかりと行って欲しいものです。イメージトレーニングのバージョンは三つあります。

- 一つ目は、地震発生直後の家屋倒壊での脱出避難です。
- 二つ目が、家屋火災からの避難です。
- 三つ目が、津波高潮からの避難です。

自分の生活地域の中で危険となりそうな場所やそれらを回避するルートについてイメージトレーニングの習慣をつけておくことが、生命の確保に直結することになります。生命あつてのものだねです。そのための訓練や習慣づけなら労を惜しんではなりません。

欲を言うなら、七千人の町民みんなが防災士になればいいのです。そういうノウハウを普段から培ってれば、どんな想定外の災害に出会っても生命だけはなんとか助かるのではないのでしょうか。

南海トラフ地震に対して本当に必要なのは津波高潮時に避難できる防災公園(高台)ではないのでしょうか。(笑い話で済めばいいのですが、) 上島町長 宮脇 馨

CONTENTS

広報かみじま
2018年7月号 第166号



今月の表紙

魚島地区の総合防災訓練では、人任せにせず、団結、協力する皆さんの姿が印象的でした。

- 2 町長の独白 / 目次
- 3 上島町総合防災訓練
- 4 あさりの会
- 6 健康だより
- 8 役場各課紹介 / 島おこし協力隊活動報告
- 9 LETTERS FROM SCHOOL
- 10 ALTコーナー / 観光協会だより
- 11 上島の文芸 / KAMIJIMA KITCHEN
- 12 しまなみ農業だより
- 13 消防だより
- 14 お知らせ
- 20 島々の話題
- 22 戸籍だより / 1歳の誕生日おめでとう
- 23 行事カレンダー / 潮汐表 / 潮湯だより
- 24 KAMIJIMA SNAP